

インターバンクの声（2014年7月18日）

16日の水曜日には、ドルは緩やかながらも102円に近づく堅調な動きを見せていたが、足元では101円を割り込もうかというレベルに反落している。この予想し難かった相場変動の原因となったのは、想定外の出来事によるものだった。わずか4ヵ月前にクアラルンプールから中国の北京に向けて飛び立ったマレーシア航空機が消息不明となり、未だに行方不明の状態だということに、再びマレーシア航空機が災難に見舞われてしまったのだ。今度はウクライナ東部でウクライナ政府軍側か親ロシア派武装勢力側のミサイルによって撃墜されたというのだ。対立は続いていたが解決に向かっていくようにも見えたウクライナ情勢も、この民間航空機の撃墜を巡って事態が悪化するのには必至だろう。為替市場では、安全通貨である円買いになっているが、混乱する状況が収まってくれば必ずしも円買いが続くとは限らないだろうが、イスラエルとパレスチナ間の対立も深まっており、当面はポジション整理によって大幅な変動が起きるようなことに注意したい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。